

スタンドアロン Oracle Management Agent (OMA) ソフトウェアの 新規入手 (ダウンロード) と適用

この設定と動作は、**OMS サーバー**に対して行う行為です

参照資料

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

- 6.2.2.4 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用してスタンドアロン管理エージェントをインストールするための管理エージェント・ソフトウェア前提条件を満たす

【オンライン・モードでの更新の適用】

6.2.2.4.1 オンライン・モードでの管理エージェント・ソフトウェアの取得

1. 「自己更新」が設定されているか確認を行う
2. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」
3. エンティティ・タイプに、「エージェント・ソフトウェア」を選択し、アクションに「開く」を選択する
4. エージェント・ソフトウェア更新ページが表示されるので、プラットフォーム OS 別の管理エージェント・ソフトウェアのリストの中から、必要な OS の行の「更新」を選択して、「ダウンロード」をクリックする
5. 「スケジュール・ダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されるので、更新ソフトウェアのダウンロード日時等を指定する
指定項目： 即時
 後で(指定した時刻)
 ダウンロードが完了したとき通知が必要か
6. 「選択」をクリックする
OS 別の管理エージェント・ソフトウェアをソフトウェア・ライブラリにダウンロードするための Enterprise Manager ジョブが作成され発行される
ダウンロードが完了すると、確認ページが表示されるので、内容を確認して閉じる

7. ダウンロードされたソフトウェアに対しては、インストールで使用できるように適用させる

〔メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」で、
『自己更新ホームページ』を表示させる〕

※ ページは自動的にリフレッシュされない。

ステータスを確認するためには、リフレッシュ・アイコンをクリックする

リストのステータスを「ダウンロード」から「更新」に変更した後、「適用」をクリックする

これにより、管理エージェントのインストールための『ホスト・ターゲットの追加ウィザード』で使用できるようなる

【オフライン・モードでの更新の適用】

6.2.2.4.2 オフライン・モードでの管理エージェント・ソフトウェアの取得

1. 「自己更新」が設定されているか確認を行う
2. メニュー・「設定」 → 「プロビジョニングとパッチ適用」 → 「オフライン・パッチ」
~~Cloud Controlがオフライン・モードに設定されていることを確認する~~
3. 「接続」の設定を「オフライン」に変更する
4. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」
で、『自己更新ホームページ』を表示させる

ここで、「更新の確認」をクリックする
これにより、「すべての更新の**カタログ**をダウンロードするためにアクセスが必要になる URL」を示すメッセージが表示される
5. インターネット接続できるコンピュータから、メッセージに記載されていた URL にアクセスして**カタログ・ファイル**をダウンロードする
6. ダウンロードしたファイルを、~~更新のデプロイ先である~~ Oracle Management Service ホストへコピーする
7. `emcli import_update_catalog` コマンドを実行して、Oracle Management Service インスタンスへ、ファイルをインポートする
 - ・カレント・ディレクトリを<OMS_HOME>へ変更する
`cd <OMS_HOME>`
 - ・インストール・ユーザーとして、EM CLI へログインする
`./emcli login -username=sysman`
 - ・EM CLI を同期します。
`./emcli sync`
 - ・更新する Oracle Management Service インスタンスに、アーカイブをインポートする
`./emcli import_update_catalog -omslocal -file=
<ダウンロード ZIP ファイルへのパス>`
8. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」
で、『自己更新ホームページ』を表示させ、リフレッシュ・アイコンをクリックして再表示（リフレッシュ）させる

「使用可能な更新」列が、「新規更新」となっている行数を確認する

9. エンティティ・タイプに、「エージェント・ソフトウェア」を選択し、「アクション」メニューから、「開く」をクリックする

これにより、エージェント・ソフトウェア更新ページに、プラットフォーム OS 別の管理エージェント・ソフトウェアが表示される

10. 使用可能な更新のリストから「更新」を選択する
これにより、ステータスが「使用可能」という表示になる

※ 対象は、OMS ホストのプラットフォーム OS と不一致なエントリのすべて

11. 「ダウンロード」をクリックする
URL および更新の手順を含むメッセージが表示される
12. インターネット接続できるコンピュータから、メッセージに記載されていた URL にアクセスしてファイルをダウンロードする
13. ダウンロードしたファイルを、~~更新のデプロイ先である~~ Oracle Management Service ホストへコピーする
14. 11.で表示された更新の手順を実行する
15. メニュー・「設定」 → 「拡張性」 → 「自己更新」
で、『自己更新ホームページ』を表示させ、リフレッシュ・アイコンをクリックして再表示（リフレッシュ）させる

自己更新ホームページでは、ステータスが「ダウンロード」状態と表示されていることを確認する

16. ダウンロードは、14.の操作で完了しているので、管理エージェントを選択して、「アクション」メニューの「適用」をクリックする

これにより、管理エージェントのインストールための『ホスト・ターゲットの追加ウィザード』で使用できるようなる